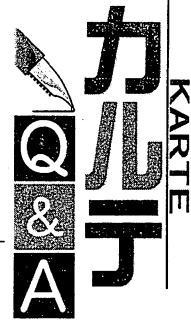


2014年4月3日(木) 神戸新聞 朝刊 カルテ Q&A コーナーに掲載されました。

【問い】右膝に2カ月以上激痛があり、曲げ伸ばしどころか歩くのもままならず、「骨壊死」と診断を受けました。運動療法などで手術の回避は望めるでしょうか。また、手術を受ける場合、その時期を判断する基準や、手術後に日常生活が送れるようになるまでの回復期間についても教えてください。(女性、72歳)

大腿骨内顆骨壊死症



岩崎安伸医師

【答え】膝の関節を構成する太ももの骨の下端は内側と外側の二つに分かれ、内側を大腿骨内顆と呼びます。その部分が壊死(組織や細胞が死ぬこと)す

とが多いですが、何もしていないくてもうすぐくともあります。診断では、病歴などを調べ、エックス線撮影をします。骨壊死があれば、画像上で骨が黒く抜けているのが確認できますが、病気が始まったばかりのときは正常に見えることもありま

このコーナーに相談したい具体的な症状をお寄せください。採用分について医師が紙上でお答えします。〒650-8577
1 神戸新聞社文化生活部。下記のファクス番号、メールアドレスでも受け付けます。住所、氏名、年齢、電話番号をお忘れなく。

日常生活に支障あれば手術を

る病気が大腿骨内顆骨壊死症です。

治療は、痛みが我慢できる程度だと手術はせず、筋力トレーニングなどの運動療法で膝を支える筋肉の力を維持、強化して痛みを軽減させます。しかし、痛みが強くと、日常生活に支障があれば早めの手術を勧めます。

入る方法の2種類があります。入院期間は当院の関連病院、あんしん病院では5〜7日間ですが、一般的には3週間ほど。退院後はつえをつけて歩くことができ、1〜3カ月で普通の生活が送れるようになります。

原因不明の特発性がほとんどで、60歳以上の女性に多く見られます。同じく高齢者に多い関節の病気「変形性膝関節症」が徐々に痛みが出るのに対し、同骨壊死症ではある日突然、激しい痛みを感じます。歩行時などに膝に体重をかけたときに痛むこ

手術では、関節の悪い部分を切り取り、金属とプラスチック

神戸新聞文化生活部・医療担当
FAX 078.360.5512 iryou@kobe-np.co.jp

兵庫真医師会、岩崎安伸
神戸市中央区、あんしんクリニック
木曜掲載